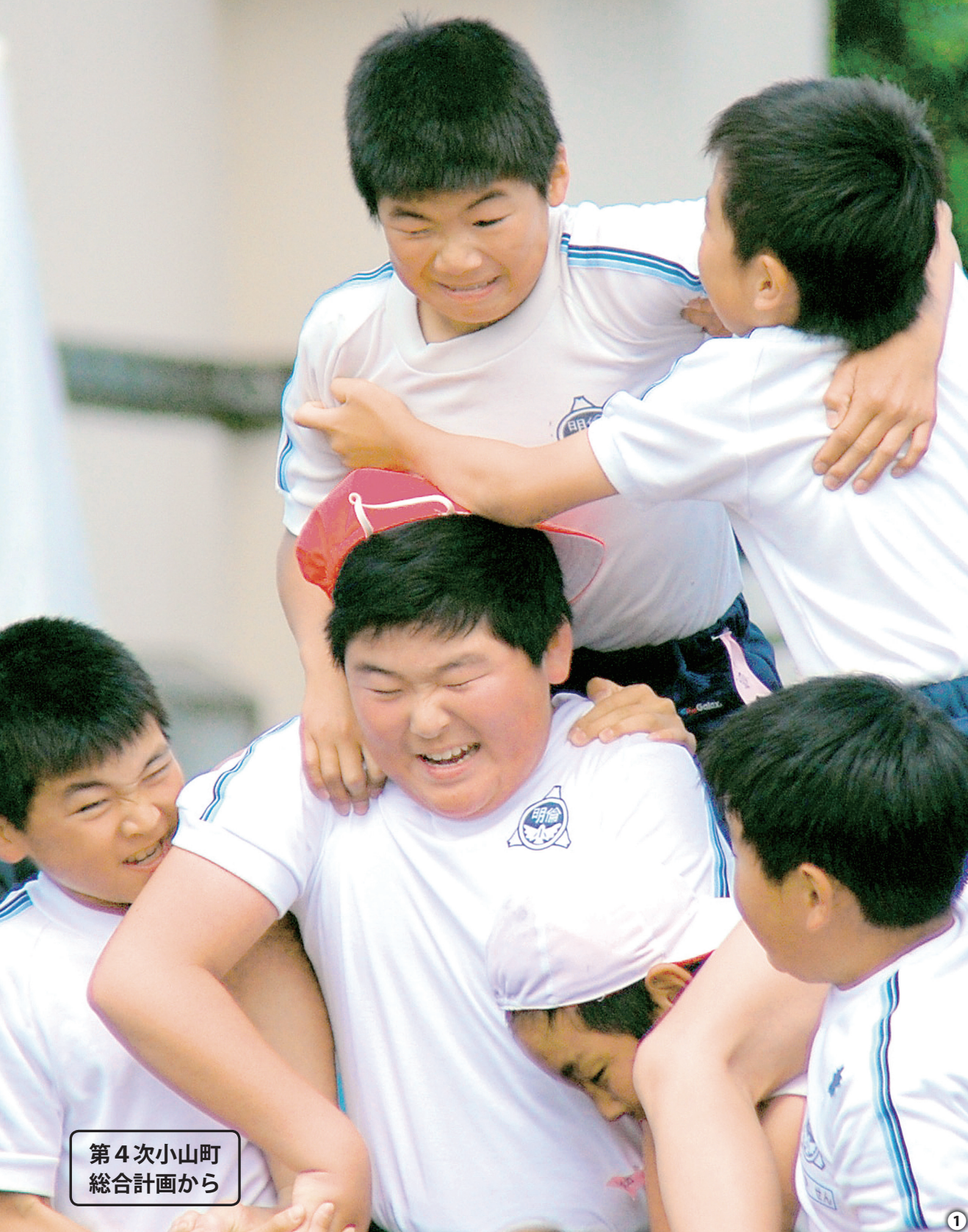


誰もが輝く、いきいきとしたまち。



第4次小山町
総合計画から

①

文化の薫り 高く

町民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び、豊かで充実した人生を送れるように、生涯学習を推進します。自主文化事業や各種趣味教室、講演会、体験学習など学習の機会を提供します。また、文化団体を育成して、連携を図り、町民文化祭など学習成果の発表の場を充実させます。

図書館では、子どもの読書離れが危惧される中、幼少時から読書習慣

を身につけるように、おはなしの会や児童講演会などを充実させていきます。

また、地域文化に親しみ、伝統文化を継承し、郷土愛を深めるために、文化財や郷土についての学習を推進します。

町民が気軽にスポーツを楽しめるように各種スポーツ教室など、誰もが参加できるイベントを充実させます。スポーツ・レクリエーションを通じて、心身が健康になり、地域の一体感や活力の向上につながっていくことが期待されます。



生きる力を 育てる

町内には、幼稚園4園、保育園4園と、小学校5校、中学校3校があります。

平成24年5月1日現在の各施設の児童・生徒数は、幼稚園327人、保育園338人、小学校1,072人、中学校562人です。特別支援学級は小学校4学級、中学校4学級設置しています。

知・徳・体をバランスよく育てる教育が必要で、「生きる力」を育てる教育が求められています。



- ① 小学校の運動会で騎馬戦の真剣勝負
- ② 町民文化祭で練習の成果を発揮
- ③ 地区対抗で戦う町民スポーツ祭
- ④ 昼休み時間はグラウンドで元気に遊ぶ
- ⑤ 平成23年全国中学校駅伝大会に初出場9位の小山中男子駅伝部

子どもたちが、地域で安心して暮らせるように、地域ぐるみでの見守りに取り組みます。

また、地域の方々に学校行事に積極的に参加していただき、魅力ある協働による学校づくりにも取り組んでいます。

小山町では、昭和30年に須走小学校で給食が始まって以降、中学校まで、学校単独方式の給食が実施されています。育ち盛りの子どもたちに、地元の食材を取り入れた給食を提供して、望ましい食習慣や食生活が身につくように指導しています。

富士紡績とともに 栄えたまち

小山町の工業の起源は、明治29年に富士紡績が操業を開始したことに始まります。その後富士紡績の従業員は1万人余りを数え、小山町は富士紡績とともに栄えました。

昭和62年に32ヘクタールの富士小山工業団地、平成2年には21・9ヘクタールのハイテクパーク富士小山が完成しました。

富士紡績による「紡績の町」から先端技術を有する企業の進出によって「テクノロジーの町」へと変化を遂げてきています。

しかし、近年は既存企業の製造部門の縮小や撤退により、町内工業団地の空洞化が懸念されています。企業誘致を積極的に行い、用地の有効活用を行っていきます。

にぎわう 商店街を

小山町は小山、北郷、足柄、須走の4つの地域ごとに商店街を含む市街地を形成してきましたが、近年、近隣市町の商業力を受けて消費者が流出しています。町民の多くは長年にわたり小山町に住み、今後も住み



地域の特性を 生かした農林業

小山町では地域の特性を生かした農業の振興に努めています。水稲については、全国米コンテストの上位

続けたい要望を持っています。商店街のにぎわいを取り戻すため、集客イベントや企業支援、商業後継者の育成などを商工会と連携して行っていくきます。

入賞など「うまい米づくり」への取り組みが広がっています。水掛け菜やワサビなどの品質向上を図り、町内の農産物の地産地消を推進します。一方で農業従事者の高齢化や担い手が不足しています。次代を担う農業者を育成していく必要があります。森林の持つ水源かん養や地球温暖化の防止などの機能を高めるため、山地災害の復旧、予防対策及び森林の整備をすすめます。併せて、木質ペレットの導入など間伐材の積極的な活用を促進します。

- ① 富士紡績第1・2工場跡地には新たな工場が進出
- ② ハウス栽培「金太郎トマト」の初食味会
- ③ 北郷地区に広がる初夏の水田



BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【 駿河駅（駿河小山駅） 】

明治22年2月1日、東海道鉄道の駅として「小山駅」が開業しました。明治42年に東海道本線に名称が変わった後、小山町制が施行される1カ月前の明治45年7月1日、「駿河駅」になりました。昭和27年1月1日に、現在の「駿河小山駅」に改められるまでの間、内外の人々に親しまれてきた駅名です。

現在、駿河小山駅の前後にある「足柄」「谷峨」の両駅が開業したのは昭和22年のことなので、写真はそれ以前のものであることがわかります。



65年程前



現在

現在のJR御殿場線「駿河小山駅」。昭和43年に駅舎が改築され、同年7月1日には、御殿場線が全面電化され、現在の形になりました。

平成24年3月17日から、駿河小山駅は無人駅となりました。

INTERVIEW

町民 インタビュー



渡邊 光子さん（大御神）

『みんな
で輪になり、
和を広げる』

小山町文化連盟の会長を今年度から務めることとなり、今まで先輩方から受け継がれてきた小山町の文化を大切にしたいという思いが強くなりました。文化連盟は分野が広く、それぞれどんなことをしているのか知らない人が多いと思います。お互いの活動の中身を知り合いながら、そして、たくさんの町民の皆さんと一緒に楽しむことができればいいと思っています。

わたしが所属する小山町民踊愛好会は、今年で45周年を迎え、130人以上の会員が民踊を楽しんでいます。昔から町民に親しまれている「金時おどり」を、子どもからお年寄りまで、もっと多くの方々に踊ってほしいと思っています。金太郎生誕の地のひとつの文化として、小山町のみんなが輪になって踊ったら、人の和が広がり、さらに文化の輪が広がると思います。



平成21年10月25日に、小山町総合文化会館金太郎ホールで開催された第24回国民文化祭・しずおか2009「民謡・民舞の祭典」では、そのフィナーレを民踊、邦楽、洋楽の団体による金時おどりで、華々しく締めくくりました。